

校長室だより

共学共高

第
66
号

令和6年5月22日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

近況報告あれこれ～第2弾

5月中旬から下旬にかけての校内の様子をお伝えしたい。

いつものように校内を巡回していると、化学室で実験を行っている様子が見えたので、近づいてみると、授業担当のS先生が「よろしかったらどうぞ」と声をかけてくれたので、実験室内に入っていった。2年生の選択化学演習の生徒たちが、「中和滴定の実験」を行っている。どの学校でもよく行われる実験の一つであり、大学入試問題にも出題される部分でもある。市販の食酢を指定された濃度に薄める作業から行っている。繊細な作業でわずかでも目盛りを超えてしまうとやり直しとなってしまう。何人かやり直しをした生徒が出ていたが、自分でよしと判断するとS先生に声をかけてお墨付きをもらってから次の作業へと進んでいく。薄めた食酢（酢酸）を3つのコニカルビーカーに分け入れ、それぞれにフェノールフタレイン溶液を数滴入れておく。これに水酸化ナトリウム溶液を滴下していったり中和したときに薄く赤紫色に変化するのである。その際、どれくらいの量の水酸化ナトリウム溶液を使ったのか測定するのである。ビュレットに水酸化ナトリウム溶液を入れて準備が整ったら、徐々に滴下していく。1回目はどれくらいの量が必要なのかわからないので、水酸化ナトリウム溶液を入れすぎてしまって濃い赤紫色になってしまう生徒も出る。2回目、3回目とだんだん上手になって、わずかに赤紫色になる見事な結果を出す生徒が複数出ていた。実験後は、酢酸の濃度がいくらだったのか計算によって求めて終了となる。やはり、実験はやりがいもあって楽しそうだ。2時間があっという間に過ぎていった。



放課後には、新入生を迎えて活性化している部活動の様子をみることができる。

和室では茶道部が活動している。いつもより大人数だとも思って、T先生に聞くと、新入部員が8名入部したという。和室の奥では、2年生が1年生に対して作法を教えている。また、講師のM先生が2年生にお手前の指導をしている。賑やかな一年となりそうだ。

家庭科室では、調理部が活動している。こちらもいつもより大人数ではないか。作ったばかりのピザを4名の部員が校長室まで届けてくれる。いつもただただで恐縮である。しかし、美味しい。さまざまに美味しいものを作る一年にしてほしい。余ったときだけ校長室に届けてくれればいいからね。



グラウンドでは、バトン部が体育祭で発表する下準備をしている。顧問のF先生とS先生が生徒たちの立ち位置を確認したり、写真に収めたりしている。普段は小体育館で練習しているから、グラウンドのような広い場所ではあらためての確認が必要なのだ。当日は、きっと素敵な演技を披露してくれることだろう。



グラウンド脇のコートでは、ソフトテニス部が練習をしている。新入部員も複数入ったようで、人数が増えている。ソフトテニス部は、バスケットボール部と私が顧問を務めるバドミントン部とで、夏・春に合同合宿を行っている。I先生の指導の下、フォアハンドストロークの練習をしている。上手に打っている1年生が複数いた。球拾いの際に声をかけると、中学では硬式テニス部に所属していたという。グリップの握り方も違うのに、ドライブのきいた球筋になっていて、適応が早いと感じた。

体育職員室前のスペースでは、保健体育科のS先生が、コーンにカラースプレーで色を

塗っている。体育祭では、色別に対抗して得点を争うので、そのための準備も先生たちがやっているとは、気づかなかった。こうした準備があって、本番当日を迎えられるのである。

学校には当たり前の日常が戻ってきた。失われた時間は戻すことができないが、今この瞬間を楽しみながら、精一杯活動できる。こうした幸せがいつまでも続いてほしいものだ。

在校生保護者の皆様、体育祭当日は十分な日よけテントや座席を御用意することができませんが、お子様たちの活躍を御覧いただけると幸いです。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)